

スモン患者の異常知覚に対する鍼通電治療に関する報告

土井 静樹 (国立病院機構北海道医療センター)
 及川 忠弘 (北海道保健福祉部健康安全局)
 藤本 定義 (中央鍼マッサージ治療室)
 藤本 純子 (中央鍼マッサージ治療室)
 稲垣 恵子 (公益財団法人北海道スモン基金)
 高橋 敦子 (公益財団法人北海道スモン基金)

研究要旨

スモン患者の高齢化が進み、併発症や日常生活動作の低下が見られるなか、安静時にもスモンの異常知覚に悩まされている患者に対し干渉波、低周波治療をおこないどのような効果があるか検証した。

下肢筋肉の強い痛み・筋緊張・痺れ・浮腫・冷感。こむら返りと痙攣は特に右足が強く、不眠の大きな原因となっている。反張膝が強くバランスをとっての立位が特に大腿から足底にかけての激しい痛みや硬直間に阻まれて保てない。このような症状がある患者に、干渉波を右腸骨稜部、右大腿外側に2極ずつ計4極付け、約15分通電。腰下肢を軽くマッサージし、パルス治療を左右臀部の圧痛点、大腿外側(大腿筋膜張筋周囲)におこなった。

1回目の治療後、歩行時大腿部の筋肉を針で刺されるような痛みが緩和された。その後定期的な治療を続け5回目頃から治療後痛みが非常に楽に感じるようになった。

A. 研究目的

スモン患者の痙性麻痺に対し、干渉波と鍼低周波通電治療(以下パルス治療)をおこない、神経や筋肉を刺激することによってどのような効果が得られるか検証する。

に達していたが、一昨年の12月頃から動作時右の大腿の筋肉に針を刺すような痛みがあり、昨年7月頃から左足にも症状が出現し筋緊張が強く反張膝も更になくなっており痛みは大腿からひざ下にまで及び車椅子からトイレへの移動、つかまり立ちにも耐えられなく

B. 研究方法

症例 80代女性(図1)

下肢筋肉の強い痛み・筋緊張・痺れ・浮腫・冷感。こむら返りと痙攣は特に右足が強く、不眠の大きな原因となっている。反張膝が強くバランスをとっての立位が特に大腿から足底にかけての激しい痛み、硬直間に阻まれて保てない。両足、両腕の冷感は特に強い。

7年前、肩腱板損傷の手術を受けてからさらに動作能力を失い現在病院にてリハビリを週1度受けている。リハビリを受けて3年余りになり徐々に現状維持の域

スモン症候		身体的合併症
歩行:	車椅子(自分で操作)	白内障
下肢筋力低下:	高度	高血圧
下肢痙攣:	高度	右翼腫核断裂
下肢筋痙攣:	軽度	シエーグレン症候群
上肢運動障害:	あり	
歩位異常障害:	範囲 Ⅲ以上 程度 軽度; 高度以下 痛覚: 高 硬直下	
下肢筋緊張障害:	高度	
異常知覚:	程度 高度	
上肢知覚障害:	内容 しめつけ、じんじん、痛み、冷感	
上肢筋緊張障害:	実により	
上肢深部麻痺:	正常	
感覚神経伝達:	正常	
アキレス腱反射:	消失	
痛覚閾値:	軽度、多少あっても感じられない	

図1 スモン現状調査個人票(抜粋) 80代女性

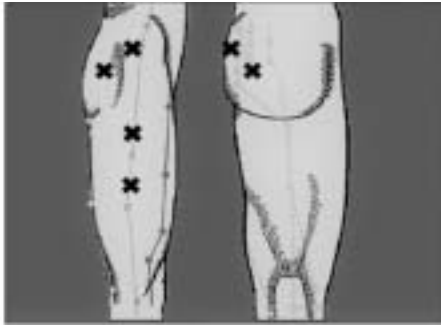


図2 症例のパルス治療点

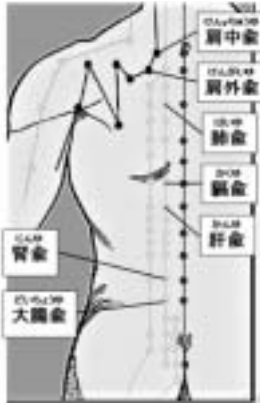


図3 症例の主要経穴

なった。そのような中で転倒、頭部と大腿部を打撲した。この様な複数の症状に対し干渉波・鍼灸マッサージ治療（パルス治療も含む）をおこない検証する。まず干渉波を右腸骨稜部、右大腿外側に2極ずつ計4極付け、約15分通電。腰下肢を軽くマッサージしパルス治療を左右臀部の圧痛点・大腿外側（大腿筋膜張筋周囲）に約10分間通電（図2）。長腓骨筋、背部の硬結部に単刺で鍼治療を行った（図3）。

C. 研究結果

1回目の治療直後、干渉波の刺激は心地よく感じ、腰・下肢への鍼やパルス治療の刺激は血行を促すような感覚があり治療中、膨満感のある腹部からガスが自然と出て治療後は足先から体幹にかけて温かく楽になったとの事だった。歩行時、大腿部の筋肉を針で刺されるような痛みも緩和。夜になっても足首から下が温かく感じ強い痙攣はなく左足のみ2回こむら返りがあったが熟睡できた。翌日まで右足に荷重をかけても針に刺されたような痛みが軽減していた。3日目には下肢全体の筋緊張による強い痛みが出てきたが、強い痙攣

は出現しておらず冷感も耐えられる程度で熟睡できた。2回目の治療は6日後におこなった。この時下肢の痛みは元に戻っており、治療中も足の位置が定まらない状態だった為干渉波やパルス治療をおこなっても筋緊張が緩和されず治療後も痛みが強く残存した。その後定期的な治療を続け5回目頃から痛みが非常に楽に感じるようになった。

E. 結論

治療後は体幹・下肢の筋緊張が緩和され、歩行時の痛みは軽減される。浮腫・痙攣・こむら返り・足関節より末梢の冷感継続治療で緩和された。特に強く繰り返すこむら返りはパルス治療開始以降改善が著しかった。両大腿部・両上肢の冷感に対しては効果がみられなかった。

鍼灸マッサージ治療による異常知覚の緩和は根治にはつながらず、症状は繰り返す為継続的な治療が必要である。